

蒲郡北地区 かわら版 第1号

蒲郡北地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

第1回 蒲郡北地区（中部中学校区）ワークショップを開催しました。

蒲郡市では、地区の皆さまが主な利用者となる公共施設（小学校・中学校・保育園・児童館・公民館）の将来の配置や使い方を示す「地区個別計画」を策定するため、中学校区ごとに「まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。7月7日（日）中部中学校にて、公募でご応募いただいた地域の方40名にお集まりいただき、蒲郡北地区（中部中学校区）における第1回目のワークショップを開催しました。この「かわら版」を通じて、ワークショップ各回の検討内容をお知らせし、地区にお住まいの皆さまからご意見の募集を行っていきます。

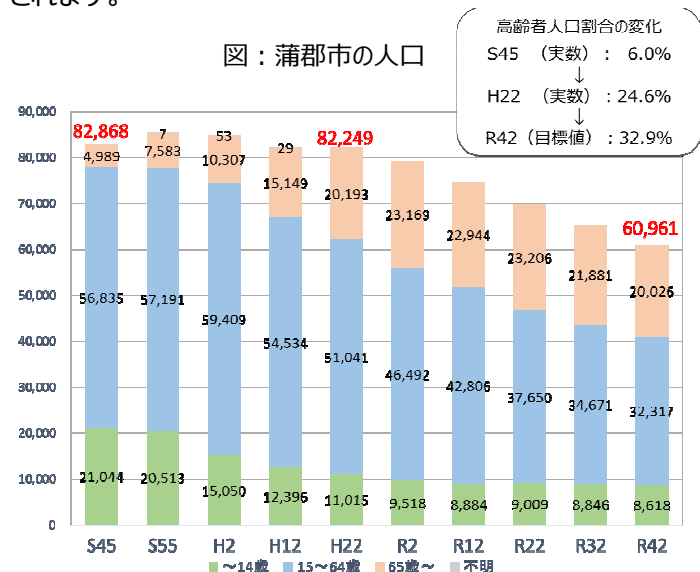
ワークショップでお伝えしたこと

ワークショップ開催にあたって、まず最初に事務局から参加者の皆さまに、蒲郡市が置かれている現状や課題、これまで行ってきた取り組みや今後の検討の進め方等について説明を行いました。

(1) 蒲郡市の現状と課題

① 人口減少と少子高齢化

蒲郡市の人口は、約40年後の令和42年には、現在から約2万人減少し、60,961人（市目標値）になると推計されています。市全体の人口のうち年少人口・生産年齢人口が減少し、65歳以上の高齢者人口が占める割合が増えていきます。今後、高齢者人口割合の増加により扶助費など“ヒト”にかかる費用が増え、公共施設などの“モノ”にかかることのできる費用が減っていくことが想定されます。

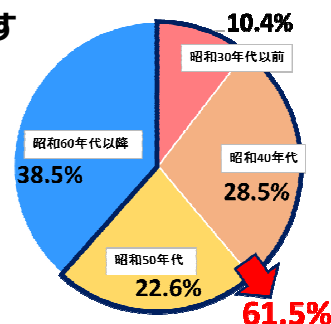


② 時代とともに変化するニーズ

社会構造の変化により、共働き世帯や高齢者世帯などが増えてきました。それに伴い、子育てしやすい環境づくりや高齢者支援の充実など、市民の皆さまのニーズも変化しています。ソフト（提供サービス）だけではなく、ハード（公共施設）の面からも、このようなニーズの変化に対応していく必要があります。

③ 施設の老朽化が進んでいます

蒲郡市の公共施設の約6割は、人口・経済ともに右肩上がりだった昭和50年代までに建設されました。これらの施設は建設後35年以上が経過し、老朽化が進んでいることから、今後施設の安全性を確保するため、大規模な改修・建替えが必要となってきます。



図：市の保有する公共施設の
建築年別床面積割合

④ 施設の維持・更新に多額の費用が必要です

多くの公共施設の改修・建替え時期が迫っており、近い将来その改修・建替えが一斉に必要なものと想定されています。全ての施設を同じ数・同じ規模で維持し続けるには多額の費用が掛かることが見込まれており、現在の蒲郡市の財政状況では、その費用をまかなうことは難しい状況です。

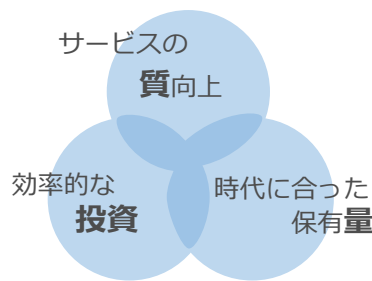
(2) 公共施設マネジメントとは

公共施設マネジメントとは、「質・量・投資」の3つの視点から公共施設を総合的に管理する取り組みです。先に述べたような課題を解決するため蒲郡市だけではなく全国の自治体で公共施設マネジメントの取り組みが進められています。

「質」：時代とともに変化するニーズに対応可能な施設か、使い勝手のよい施設かなど、多くの皆さまに便利に利用していただける施設づくりが必要です。

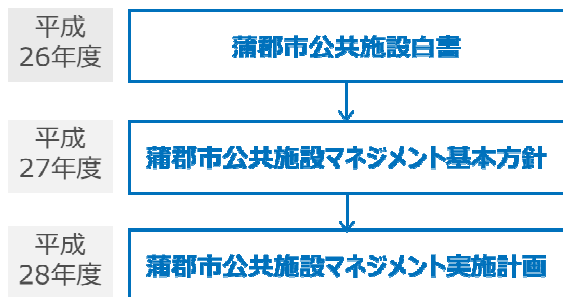
「量」：今までの公共施設は人口が増える時代に当時の需要に合わせて建設されてきました。蒲郡市の人口規模や財政状況を踏まえ、将来世代の負担とならないような施設保有量を考える必要があります。

「投資」：どの建物を優先的に改修・建替えをおこなっていくのか、施設の安全面や今後の需要等を踏まえ、効率的に考えていく必要があります。



(3) 蒲郡市におけるこれまでの取り組み

市では、平成26年度に「蒲郡市公共施設白書」を作成し、公共施設の現状と課題を整理しました。その後、アンケートや市民会議などを通じ、市民の皆さまのご意見を反映させながら、公共施設マネジメントの原則を示す「蒲郡市公共施設マネジメント基本方針」、公共施設の再整備を進めていくための方策を示す「蒲郡市公共施設マネジメント実施計画」を策定しました。



■ 蒲郡市公共施設マネジメント基本方針

適正化 効率化 魅力 安全性 実行力

この5項目を公共施設マネジメントの取り組みを進めていく上での原則として示しました。

■ 蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

目標、施設用途別の方向性、実行体制などを示し、公共施設マネジメントの取り組みを具体化させました。

計画期間、マネジメント目標については以下のとおりです。

◆計画期間：30年間(平成29年度から令和28年度まで)

◆マネジメント目標：

- ① 建物更新の際に概ね3割の床面積を縮減する。
- ② 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、523億円の維持更新費を縮減する。

(4) 地区個別計画の策定

地区の皆さまが主な利用者となる小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を中学校区ごとに策定します。

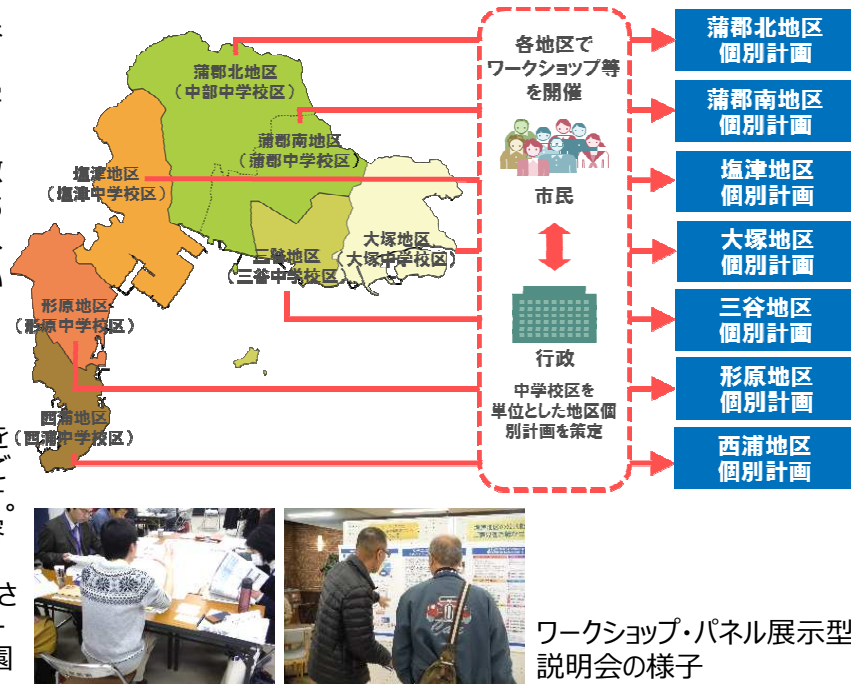
計画の策定にあたっては、地区ごとの特性・特徴を施設の配置に反映し、施設の再編がより良いまちづくりにつながるようワークショップやかわら版、パネル展示型説明会等で地区の皆さまのご意見を伺いながら検討を進めます。

【用語解説】

ワークショップ：意見やアイデアを出し合い、話し合いをしながらその成果をまとめていく検討方法です。公募でご応募いただいた方々に継続的に話し合ってください。

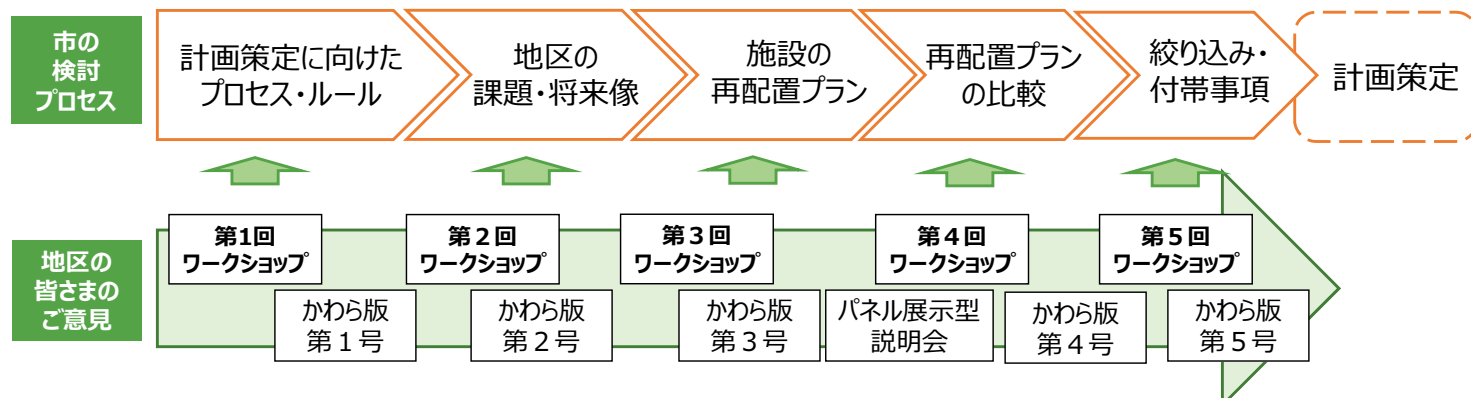
かわら版：本紙のことです。ワークショップでの検討内容をお知らせし、地区の皆さまからご意見を募集します。

パネル展示型説明会（オープンハウス）：住民の皆さまが集まる施設でパネルを用いた説明や簡単なアンケートを実施します。過去には地区内の商業施設や保育園等で実施しました。



(5) 検討の進め方

市は地区個別計画の策定に向け、5つのステップに分けて段階的に検討を行います。検討の各ステップでは、ワークショップ等でいただく地区の皆さまのご意見を参考にします。



皆さまのご意見を参考に蒲郡北地区（中部中学校区）の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

第1回ワークショップでいただいたご意見

今後の検討の進め方や、地域のまちづくり・公共施設についてご意見をいただきました。

蒲郡市の現状と課題・計画検討の進め方について

■蒲郡市の現状と課題について

- 人口減少に対応して、公共施設の縮減や合併をすることはある程度仕方ないと思う。
- 人口減少が進む見通しにあわせ、施設も削減の方向で進められているのは納得がいかない。
- これから人口減少や財政縮減が見込まれる中、今ならまだ財政的な余裕もあり、取り得る選択肢も多い。将来の話をするのに今は好機だと思う。
- 宅地造成や企業誘致などにより人が増える施策を考え、それを踏まえて施設に余裕を持たせることも必要だ。ただし、その場合は運営面や維持管理費用の面から総合的に検討する必要がある。
- 将来の維持更新費が足りなくなるという根拠について、疑問が残る。
- 施設を縮減するよりも今ある施設を長く利用する方がよりコストを抑えられると思う。

■地区個別計画策定に向けた検討の進め方について

- 公共施設の再編は地域コミュニティへの影響が大きいため、ワークショップやオープンハウスだけではなく、自治会・PTA等の地域団体や興味を持っていない人の意見をどう吸い上げ、計画に活かすかの工夫が必要である。
- 地区内にある図書館や市民体育センター等の全市利用型施設（市内全域の方が利用する施設）についても、一緒に検討すべきではないか。
- 小中学校については、中学校区の枠にとらわれずに、全市的な方針・視点で配置案を考えた方がよいのではないか。
- 中央小学校区は蒲郡南地区（蒲郡中学校区）にある蒲郡公民館を利用しているため、蒲郡南地区を交えて公民館の再配置について話し合いをする必要がある。
- 中央小学校区・北部小学校区・西部小学校区ではそれぞれ地域の実情が異なるため、各学区の問題や課題等に対する認識に温度差が出ないように、お互いの実情を知ることが必要である。

地区のまちづくりの方向性

- 坂本町の高齢化が深刻だ。車に乗らなければ生活ができないので、コミュニティバス等交通インフラの整備が必要だ。
- 高齢者にとって日常的に交流できる居場所が大事だ。公共施設の再配置の計画が高齢化などの地域課題を解決するものであってほしい。
- 中央小学校と南部小学校、中央小学校と西部小学校では学校区と自治会との不整合が起きているため、不整合は解消される方がよい。
- 現在の学校や保育園の維持にこだわる必要はない。公共施設の再配置とともに行政区も適宜変化していく必要がある。
- 西部小学校区は市街化調整区域が多く新しい家が建ちにくい。道路整備や区画整理など、将来的に学校区内で開発をできるようにならないか。

公共施設の現状や今後について気になること

■公共施設全般

- 将来人口が減少して、昔と同規模になったとしても、人口分布や年齢構成は昔とは異なる。将来の人口分布や年齢構成に応じた施設配置を検討するべき。
- 公共施設の再配置を議論する前に、まず現状を把握する必要がある。利用率や利用方法を把握したうえで、どうやって利用してもらうことができるかを考える必要がある。
- 高齢者や子どもは徒歩での移動が多いため、こうした人が利用する施設は徒歩圏内に配置するのがよい。
- 建替えをする際に、子育てに寄与する施設や災害時に障がい者や高齢者の避難に対応可能な施設にするなど、多機能化を推進することが望ましい。
- 保育園・小学校・児童館はできるだけまとめ、近くにあるほうがよい。そのほうが保護者にとって便利で安心な子育てができる。
- 今後、部活動がなくなるといわれているので、市民団体や子ども達とともに活動できる場所を検討できるとよい。
- 公共施設の配置を考えるうえで避難所・避難場所は大きな要素となる。公共施設の立地する敷地が避難場所として適しているかや、避難所の受け入れ可能人数、一時的な避難所なのか中長期的な避難所なのかといった点も大事だ。
- 津波や落合川・西田川の氾濫などの観点からも公共施設の立地について考えるべきである。こういった災害に対する危機感世代間で温度差がある。
- 北部小学校区・西部小学校区の施設が古くなっており、対応が必要だ。

- 今ある施設を有効に活用し、余った施設は廃止すべきである。
- 公共施設が有効活用されていない。民間に有料で貸し出したらどうか。

■小中学校

- 学校施設の利用実態を正しく把握したうえで、空き教室の活用など施設の有効利用の可能性を検討するべきである。
- 学校は地域活動などでもっとオープンにされるべきだと思う。
- 部活動が減っていく中で、テニスコートや弓道場などの今後の必要性を考え、再配置を考える際にはこういった学校内施設の廃止も検討していくのがよい。
- 児童数や施設の築年数を考慮して3つの小学校を2校へ再編するのが妥当だ。たとえば、西部小学校と中央小学校を合併して新しい小学校を建てれば、中央小学校と市民体育センターの敷地を一体的に活用できる。
- 西部小学校区は人口が少なく、PTAや地区の役員など住民の負担が大きい。学校の再編をすれば負担の平準化や効率化を図ることができる。
- この機会に、小中一貫校を導入して、中部中学校と地区内の3小学校を1つにしてはどうか。ただし、その場合には小学生の通学手段について検討する必要がある。

公共施設の現状や今後について（続き）

■小中学校（続き）

- 人数が少ない学校はクラス替えもなく人間関係で苦労するという声も聞く。反面、人数が少ないことで自己を表現する力が養われるという声も聞く。メリットデメリットの両方を考慮する必要がある。
- 通学路の安全を考慮した計画にするべきである。学校の統合は通学距離が長くなり、安全面に置いて心配がある。
- 小中学校は少子化や多国籍化、障がいを持つ子への支援などが増えていくと思う。学校を減らしてでも子ども達に手厚い支援ができるようになってほしい。

■保育園

- 保育園は必ずしも最寄りの園ではなく、車で送迎している実態がある。統合によって効率化し、延長保育や低年齢児保育などのサービスを向上してほしい。
- 西部保育園は他地区から通っている子が多い。
- 西部保育園は西部小学校に隣接しているが、一体的になった方が便利だ。
- 1クラス当たりの適正な園児数は15～20人でないか。

■公民館

- 公民館の利用者が減っているの、他の地域からでも利用できることをPRして利用促進を図るとよい。
- 公民館にもっと若い人が来てほしい。そのためにWifiの整備など若い人が使いやすい施設にするべき。
- 公民館は高齢者の利用が多い。小学校と複合化することで色んな世代で交流することができるようになるのではないか。
- 公民館の利用方法などを市民に分かりやすく伝える工夫が必要。

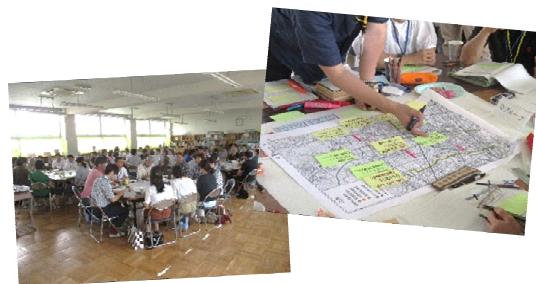
- 子どもだけでなく大人も学ぶ（学びなおす）ニーズが高まっているので、公民館を小学校と複合化し、地域の生涯学習拠点としていくのがよい。そうすることで、大人の交流の場となり、地域の活性化にもつながる。
- 昔は子どもが公民館で遊んでいたが、最近は見かけない。公民館の必要性を考えるうえで子どもの遊び場の現状も知りたい。
- 中央小学校区は隣の学校区にある蒲郡公民館を利用している。学区内にある市民体育センターに公民館を併設してほしい。

■児童館・児童クラブ

- 西部小学校・北部小学校の児童クラブはちゅうが児童館で実施されている。児童館への移動は大変ではないだろうか。交通事故も心配なので、学校の敷地内で実施できないだろうか。

その他

- バイパスが開通したことにより地区の南部と北部が分断され、自治会運営に混乱が生じている。
- 地域の集会場は常時開いていないところもあるので不便だ。子どもの自習の場なども含めて多目的に使えるように活用を促進することが必要。
- 自治会などの役員を引き受けたがらない人が多い。このワークショップのような会合にも関心を示さない人が多く、どうやって参加を促していくか、魅力を伝える方法を考える必要がある。



ご意見募集

ワークショップに参加している方だけでなく、地区にお住まいのたくさんの方のご意見を参考にして「地区個別計画」の策定に向けた検討を進めていきます。

- ワークショップで検討されている内容について
- 蒲郡北地区のまちづくりや公共施設について

日々の生活で感じている地域や地区内の公共施設に関する些細なことで構いません。

下記のお問い合わせ先まで、メール・ファクス・郵便・持参により、どうぞお気軽にお届けください。差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

ご意見を
お待ちしております!!



次回ワークショップのお知らせ

日時：8月4日（日）

午後1時30分～午後4時30分

場所：中部中学校 3階図書室

内容：地区の課題について

課題解決のためのアイデアについて

どなたでも傍聴ができます。

傍聴をご希望の方は、右のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部公共施設マネジメント課

〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号

E-mail k-mane@city.gamagori.lg.jp

TEL 0533-66-1214 / FAX 0533-66-1183

ワークショップについて、
詳しくは市HPをご覧ください。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/site/management/machizukuri-kokyoshisetsu.html>

